

『戦争の詩／詩の戦争』

『ス페인継承戦争をめぐる』

講師…名城大学 経済学部 西山 徹 氏

日時…七月一九日(木)一五時から

場所…一〇号館 第二大会議室

経済・経営学会研究会が右の通り開催されました。講師は経済学部の西山徹氏、講演は一八世紀初頭にイギリスで展開したホイッグ詩人とトリー詩人の攻防に関するものでした。議論は英文学と政治や歴史の関係について、門外漢にも興味をもつて楽しめるように、丁寧に進められました。

全体の構成は、一・一七〇一年から一七一四年のスペイン継承戦争時に詩がどのような役割を演じたか、二・ホイッグ系の詩の紹介、三・トリー系の詩の紹介、四・全体のまとめでした。一の歴史の解説では、かの英国首相ウインストン・チャーチルが誕生したブレニム宮殿(英軍総司令官モールバラ公爵ジョン・チャーチルに戦勝の報賞として与えられたもの)の写真を見せられたり、政治的な詩を正当化する「崇高」の概念をパワーポイントの映像によって説明されたりして、参加者は熱心に聞き入りました。詩の引用は日本語訳で朗読され、「詩は



詠うもの」という原点に還る機会にもなりました。

当時のブリテンを「財政・軍事国家」に再編成する基盤を築いたのはウイリアム三世です。そのウイリアム三世を支えたホイッグ勢力は、ヨーロッパにおけるフランスの覇権を嫌い、新国家形態の維持のために積極的に対仏戦争を推し進めました。通常の歴史のテキストならここで終わりますが、そこから、文学（詩）を通して読み説くという新しい視点が提示されました。研究会参加者の専門は様々でしたが、各人の知識や経験から様々な興味をもって聞くことができたように見受けられます。単に英雄モルバラ公を称揚するのではなく、その正当性を「崇高」の理念に求めた点の説明で、アルプスのマッターホルンが紹介されると、英国の地形とスイスの山並みを知る人からは「なるほど」と声があがりました。

講演の後、休憩をはさんで、質疑応答も活発に行われました。「英仏戦争と言われたが、実際はオランダやオーストリアなどヨーロッパの他の国も関わる戦いだっただけではないか」という質問には、西山氏は「全体の背景を解説させていただくにはありがたい質問です」と応じられ、当時のフランスの覇権が拡大することを嫌った英・蘭・オーストリア同盟国が、フランス・スペインに対抗した歴史が解説されました。

また、「日本人は詩という抒情詩を思い浮かべるが、イギリスの詩は現在もこのような詩が多いのか」「文学と政治は不可分と言われたが、小説はどうか」など、英文学の成立や事情について尋ねる質問には、「詩の概念がとても広い」ことや「小説は少し時代が下るが、社会的な背景を無視して考えることはで



きない点は同じ」と丁寧に説明されておりました。
学会員以外の参加もあり、一六人ほどのまとまりのよい研究会となりました。

《今後の公開講演会・研究会のお知らせ》

経済・経営学会では、次のような公開講演会と研究会の開催を予定致しております。いずれも申込不要、参加費無料です。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

*公開講演会

『元氣・活氣・勇氣を与えるコミュニケーション術』

講師…日本ペップトーク普及協会会長 岩崎 由純 氏

日時…平成二四年一〇月一〇日(水)

三限(一三時一〇分～一四時四〇分)

場所…共通講義棟北 N1201

*研究会

『一八世紀におけるBows家の資産管理』

講師…名城大学 経営学部 相川 奈美 氏

日時…平成二四年一〇月一八日(木)

三限(一三時一〇分～一四時四〇分)

場所…一〇号館 三階 第二大会議室

*研究会

演題 未定

講師…名城大学 経済学部 大庭 清司 氏

日時…平成二四年一二月六日(木) 午後の予定

場所…一〇号館 三階 第二大会議室

(演題及び時間は、決定次第HPとリーフレットでお知らせ致します。)